

静岡県下田市旧町内における目的地の有無が及ぼす経路選択の違い

The influence of the presence or absence of destinations

within the former town area of Shimoda City, Shizuoka Prefecture, on route selection

○藤井朋美¹, 山中新太郎², 中林諒³

*Tomomi Fujii¹, Shintaro Yamanaka², Ryo Nakabayashi³

Abstract: This study conducted surveys and behavioral analyses on tourists who visited the former town area of Shimoda City, Shizuoka Prefecture. The questionnaire survey aimed to gather information about the subjects' demographics and their destinations. The behavioral analysis involved providing subjects with smartphones equipped with GPS functionality to track their movements. The results of the behavioral analysis indicated that the roads in the former town area were difficult to navigate, suggesting a confusing and easily disorienting urban environment.

1. 序論

1-1. 研究背景

本研究の対象地である静岡県下田市旧町内（以下、旧町内）は、伊豆半島の南東部に位置する港町で、ペリーロードやなまこ壁を有する建物など、江戸時代から続く街並みが特徴である。そのような特徴から、下田市は観光客のまち歩きを推進して回遊性を高める取り組みを行っている^[1]。

しかし、旧町内では多くの地方都市と同様に空き店舗や空閑地が増加する都市の空洞化が進み、商店街のシャッター街化や中心市街地への自動車の流入が問題となっている。また、旧町内の道路環境には特徴がなく、そのうえ類似している街並みが続くため、観光客は特に行先を見失いがちである。

1-2. 既往研究と本研究の目的

旧町内の建物や街並みを対象とした研究としては、熊谷らの土蔵造りの街並みの形成時期を明らかにしたもの^[2]や、人見らのなまこ壁の意匠性について論じたもの^[3]、小川らの建物の建設年代に着目したもの^[4]などがある。それに加えて、真崎らの沿道空間や空地の現状把握を行った研究^[5]があるが、旧町内における観光客の行動と街並みの関係性について言及したものは、筆者らの先行研究^[6]のみである。

筆者らの先行研究では、旧町内を自家用車で訪問した観光客を対象にアンケート調査やGPSを用いた行動調査を実施した。その結果、駐車場のような景観要素が連続する街路は歩行行動を誘発しにくく、緑豊かな細い路地のような景観要素を有する場所は歩行行動を誘発しやすいことを推測することができた。

本研究は継続研究であり、迷いが生じたり歩みを進めることを諦めなくなったりしてしまうような街路条件を明らかにすることを目的として研究を行う。

2. 研究方法

2-1. 調査方法

本研究は、先行研究と同様に①～③の3つの調査を行う（Fig. 1）。

①観光前アンケート：被験者の属性の把握を行うとともに下田への訪問回数や観光目的地の有無を調査する。

②行動調査：GPS機能内蔵のスマートフォン^{注1}に経路記録用のアプリケーション^{注2}を用いて経路データを収集する。

これを観光前の被験者に貸与し、観光時に携帯してもらい、帰る際に回収を行う。

③観光後アンケート：下田の街並みの印象や目的地の変化に関する調査を行う。

2-2. 調査拠点と結果

調査は、先行研究と同様に旧町内の南東部にある下田市ペリーロード駐車場を拠点として実施した（Fig. 3）。調査を行った日程とその結果をTable 1で示す。

Table 1. 調査結果

調査日	ペリーロード駐車場
2021/10/30	晴のち曇 21.6/12.4℃ 19組
2021/10/31	曇のち雨 18.7/15.2℃ 11組
2022/ 5/ 2	曇のち晴 21.5/10.9℃ 20組
2022/ 5/ 3	晴のち曇 19.5/ 8.0℃ 25組
2023/ 5/ 4	曇のち晴 15.4/ 4.6℃ 15組
2023/ 5/ 5	晴 13.4/ 2.0℃ 20組
2023/ 5/ 6	晴のち曇 13.4/ 2.2℃ 20組

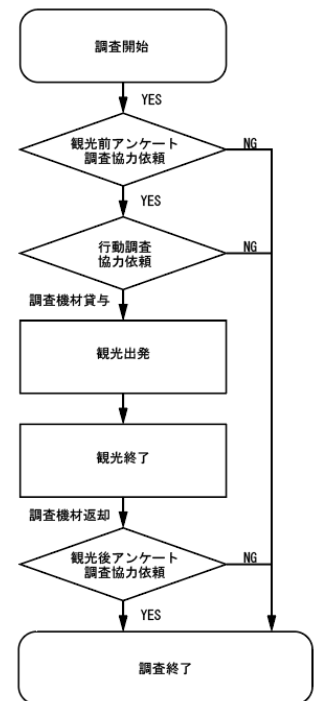


Fig. 1 調査フロー

1：日大理工・院（前）・建築 2：日大理工・教員・建築 3：日大理工・研究員・建築

3. 観光目的別の行動の様子

3-1. 被験者の目的行動パターンの把握

本研究では、先行研究と同様に観光目的地と実際の観光先について観光前後のアンケート調査

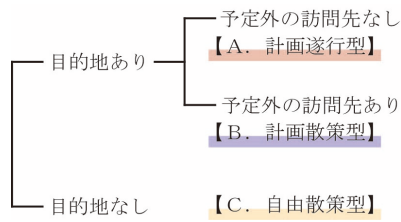


Fig. 2 目的行動パターンの種別

をもとにFig. 2で示す3つの目的行動パターンに分類する。観光前アンケートで目的地があると回答し、観光後アンケートで予定外の訪問先へ行かなかったと回答したグループ群を「A. 計画遂行型」、観光前アンケートで目的地があると回答し、観光後アンケートで予定外の訪問先へ行ったと回答したグループ群を「B. 計画散策型」、観光前アンケートで目的地がないと回答したグループ群を「C. 自由散策型」と定義する(以下, A, B, Cと呼ぶ)。

2021年10月～2023年5月までの総被験者数は125組でAが41組, Bが79組, Cが5組であった^{注4}。

3-2. 目的行動パターンによる街の感じ方の違い

全被験者125組中, 観光後アンケートで「道が分かりにくい」と回答した被験者は27組で, Aが9組, Bが16組, Cが2組であった (Table 2)。

Table 2 「道が分かりにくい」と回答した被験者の数

目的行動パターン	総数 (a)	「道が分かりにくい」と回答した数 (b)	b/a ×100
A. 計画遂行型	41組	9組	22.0%
B. 計画散策型	79組	16組	20.3%
C. 自由散策型	5組	2組	40.0%

グループ群ごとに「道が分かりにくい」と回答した被験者数と全体の比を算出すると, AとBが20%程度であるのに対し, Cは40%と回答者の割合が高いことが分かる。これは, 目的地がないCはAやBよりも街路環境に対して感受性が高く, 街路環境が経路選択に影響を及ぼしている可能性が高いと考えられる。

3-3. 目的行動パターンによる観光行動の違い

「道が分かりにくい」と回答した被験者の行動の様子をFig. 3に示す。回答があった27組の被験者のうち12組がリンク^{注3}の途中で歩みを止めて引き返している行動(以下, 迷い行動)が見られ, 観光の道中で迷っていると考えられた。

Fig. 3中の緑の丸で囲った箇所は, 12組の迷い行動が見られた場所である。旧町内は碁盤の目状の区画割りをしているため一見, 明快であるように思えるが,

Fig. 3中の写真で示すような緩く湾曲している道が多くあり, この街の構造が観光客を迷わせる原因の一つとなっていると考えられる。



Fig. 3 道が分かりにくいと回答した被験者の行動

4. まとめと今後の展望

4-1. 結論

本稿では, 観光後アンケートの「道が分かりにくい」という回答に着目して分析を行った。自由散策を行う被験者は街路環境から影響を受けやすいと考えられた。

4-2. 今後の展望

2023年9月にも同様の調査を実施しているため, 次稿までにはその時のデータも含めて旧町内で迷う原因についての更なる分析を行っていききたい。

本研究は委託研究「下田市における歩車共存による交通規制社会実験調査業務」の成果の一端である。

脚注および参考文献

- 注1) iPhone6S: Apple, 138.3mm×67.1mm×7.1mm, 143g.
- 注2) iOS版GPSロガーアプリ「ルートヒストリー」: Kazuhiko Oda 開発, Ver. 2.3
- 注3) リンク: 道路網における交差点から交差点までの道路のこと。
- 注4) グループ内で回答に相違があった場合, 当初の観光目的地の有無に関しては「あり」, 予定外の訪問先の有無に関しては「なし」とした。
- [1] 静岡県下田市, 第2次下田市観光まちづくり推進計画, 令和3年3月, p. 25.
- [2] 熊谷透・日向進: 文化年間における下町の町並み—文化10年「下町焼失家数教養絵図」を中心に—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2012.
- [3] 人見誠・マルセル・菅野博真・小澤淳史: 静岡県下田市におけるなまこ壁が表象する地域性と市街地への展開特性に関する研究, ランドスケープ研究, 2017.
- [4] 小川弾・山中新太郎・石川大二郎・三橋侑平: 下田市旧町内の建物等の増減と利用者変化, 日本建築学会学術講演梗概集, 2017.
- [5] 真崎颯・山中新太郎・小川弾・藤井朋美: 地方市街地における沿道空間及び空地を活用した歩行者ネットワークに関する研究—静岡県下田市旧町内を対象として—, 日本建築学会関東支部研究報告集, 2022, p. 373-376
- [6] 藤井朋美・後藤龍太郎・小川弾・山中新太郎: GPSアプリを用いた観光者の目的行動パターンに関する研究—静岡県下田市旧町内を対象として—, 日本建築学会梗概集, 2022.